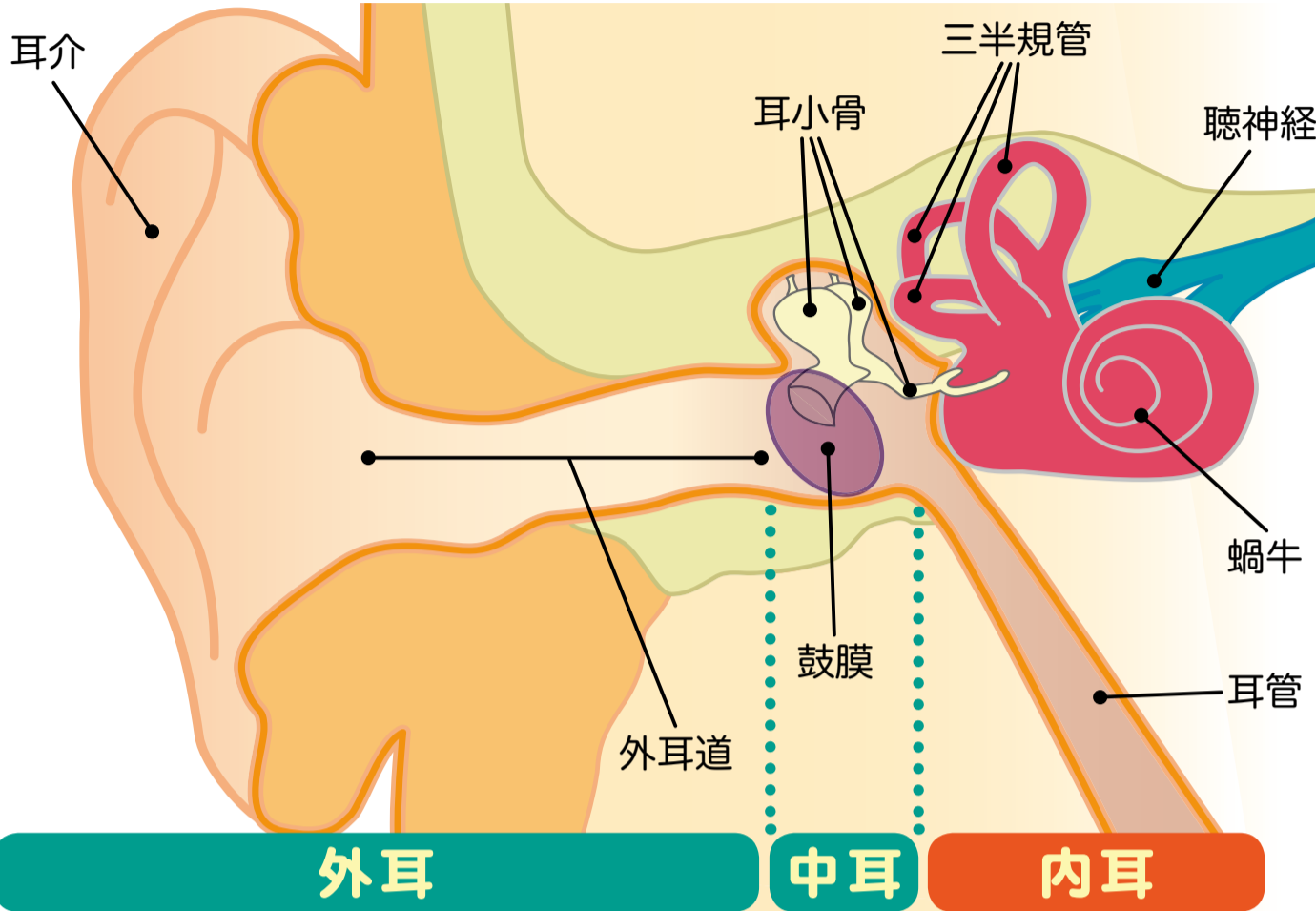


難聴に伴い 生じることが多い

耳鳴り



耳鳴りは内耳性の難聴に伴って起こることが多い症状です。なかでも突発性難聴は、治療が遅くなると聴力の回復が望めないため注意が必要です。

一時的な耳鳴りは心配ありませんが、**耳鳴りが1～2日持続するようなら耳鼻咽喉科を受診しましょう。**

耳鳴りを伴うことが多い 内耳や聴神経などの障害による“感音難聴”

● 突発性難聴 ●



- 突然、片耳が聞こえなくなり、耳鳴りが生じる
- 激しいめまいが起こることもある(めまいは2,3日で消える)
- 原因は不明

突発性難聴では、早期発見と早期治療が重要なポイント
治療が早いほど、回復する確率が高まります

1週間から遅くても2週間までの治療が望ましく、1ヶ月を過ぎると聴力が回復する見込みはなくなってしまいます。

● メニエール病 ●



- 過労やストレスなどが原因
- 「ブー」という耳鳴り
- 耳が塞がった感じ
- 耳が聞こえづらい
- 回転性のめまい
- くり返し発作が起こる

● 音響外傷 ●



- 大きな音を聞いたときに起こる
- 耳鳴り
- 耳が聞こえづらい
- 耳がつまった感じ
- めまい
- 早期治療が大切

● 老人性難聴 ●



- 加齢に伴い聴力が低下して耳鳴りが起こる
- 老人性難聴の多くは放置しても問題ないが、高血圧や糖尿病の初期症状の場合があるので、内科的検査も必要

耳鳴りには重大な病気が潜んでいることも

聴神経にできる良性の脳腫瘍 聴神経腫瘍



- 腫瘍が神経を圧迫し、耳鳴りや難聴、めまいなどの症状が起こる。
- 腫瘍が徐々に大きくなるにしたがって、症状も進行する。



慢性的な耳鳴りの治療は、耳鳴りによる生活への支障を軽減すること

耳鳴りの原因となる病気がわかっている場合には、その病気を治療することが耳鳴りの治療となります。ただし内耳性の難聴に伴う耳鳴りは完治が難しく、その場合には耳鳴りが生活の支障にならないようにすることが治療となります。日常生活では、耳鳴りを悪化させる睡眠不足や過労を避けるようにしましょう。そして、定期的に聴力検査を受けて聴力の変化を観察し、耳鳴りの音色が変化したり、音が大きくなった場合には、すぐに耳鼻咽喉科を受診するようにします。